

津軽伝説（I） 鬼神伝説

河村郁子

新青森駅より間もなく岩木山<sup>やま</sup>裾野広がる美景を拝す

刈田なる津軽平野を加護なされ<sup>こたび</sup>此度はわれらを迎ふるごとし

岩木山ふもとの阿曾部<sup>アソベ</sup>の森のなか伝説あまたな鬼神<sup>き</sup>社御坐す

そのむかし弥十郎とふ農夫ゐて山の大人<sup>おほひと</sup>（＝鬼）と睦みてゐたり

弥十郎より水の不足を聞きたれば鬼は一夜に逆堰作りき

流れ変へ田を潤して崇められ地名は鬼神堰と鬼沢

仕事の場を覗かれしゆゑおほひとは鍬と蓑笠残し去りたり

鬼神社の御神体には鍬と笠 篤く祀られ語り継がるる

今もなほこの地のならはし節分に豆を撒かぬと守られてゐる

奥津軽の鬼は優しく住む人の篤きまごころ伝説に知る